

学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式（中学校用）

都道府県名	三重県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	三重県尾鷲市立輪内中学校					
学 年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	7
生徒数	21	24	22	0	67	

研究の概要

1. 研究主題

『確かな学力』の形成・定着・向上
= 「学び」の創造を通して =

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年、全教科（美術を除く）総合的な学習の時間

『学力』が形成されていく原動力に自尊感情や自己肯定感から生まれる自信ややる気がある
ととらえ、それらを引き出すための教科・領域・総合的な学習の時間等での多様な学習活動
を全学年で推進する。

（5年前から豊かな体験活動を基盤として、自尊感情や自己肯定感を引き出す取組を展開し
ているため）

「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」を相互に響き合わせながら「確かな学力」の定着
をめざしていく研究を総合的な学習の時間と教科を関連させながら推進する。

（昨年度は、技術家庭科、英語科、1年理科を中心に研究を推進してきた。これをさらに多
の教科に広げて、「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」を相互に響き合わせながら「確
かな学力」の定着をめざしていきたいため）

『学力』を向上させていくための支援・指導としての仲間との学び合い、授業づくりなどの
研究を推進する。

中学校修了までの生活経験や既習事項（知識、技能）を関連づけながら問題解決のための方
法を考えたり、まとめたり、発表したりするために必要な思考力、判断力、表現力などの定
着について研究を推進する。

・全学年、国語・数学・社会・理科・英語

全学年の生徒を対象に中学校修了までの国語と英語の読み・書き、算数・数学の計算技能と
各教科の内容を理解できるための最低限の知識（言語事項）や技能（処理能力）の定着につ
いて研究を推進する。

(2) 年次ごとの計画

平成
14
年度

テーマ

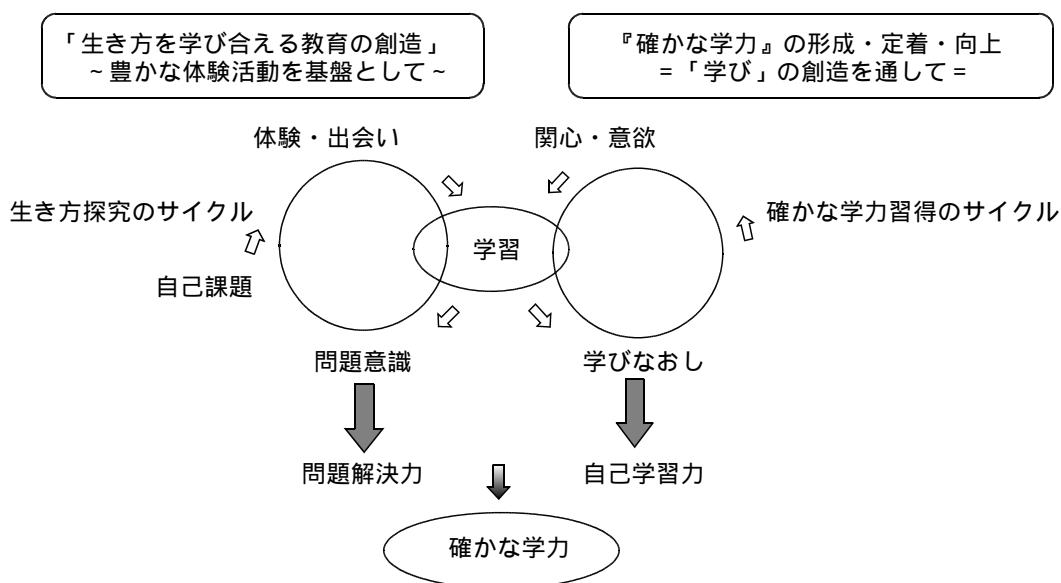
- ・「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の響き合いによる「学び」の創造
- ・学習シートによる基礎・基本の定着

仮説

総合的な学習の時間や教科での多様な体験や学習活動は、問題意識や関心を高め、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」と響き合い、「確かな学力」形成の原動力となり、基礎・基本の定着を促進するであろう。

また、自信ややる気を引き出す学習シートの開発は、基礎・基本の確実な定着を図るであろう。

< 互いに関連し、機能し合う教科と総合的な学習の時間 >



研究内容・方法

『確かな学力』形成の原動力の研究

互いに関連し、機能し合う教科と総合的な学習の時間での「学び」の創造

- ・技術・家庭科でははっぴづくりを中心にして、「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の関連を探る。
- ・英語科では生徒の「学ぼうとする力」「学んだ力」の差を克服するために、「学ぶ力」とくに自己表現力を育てながら「確かな学力」を定着・向上させていく研究を進める。また、Human Time「防災」プログラムと理科で「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の響き合いを研究する。

基礎・基本の定着のための研究

「確かな学力」の核となる基礎的・基本的知識・技能の定着のための授業づくり、教材開発の推進

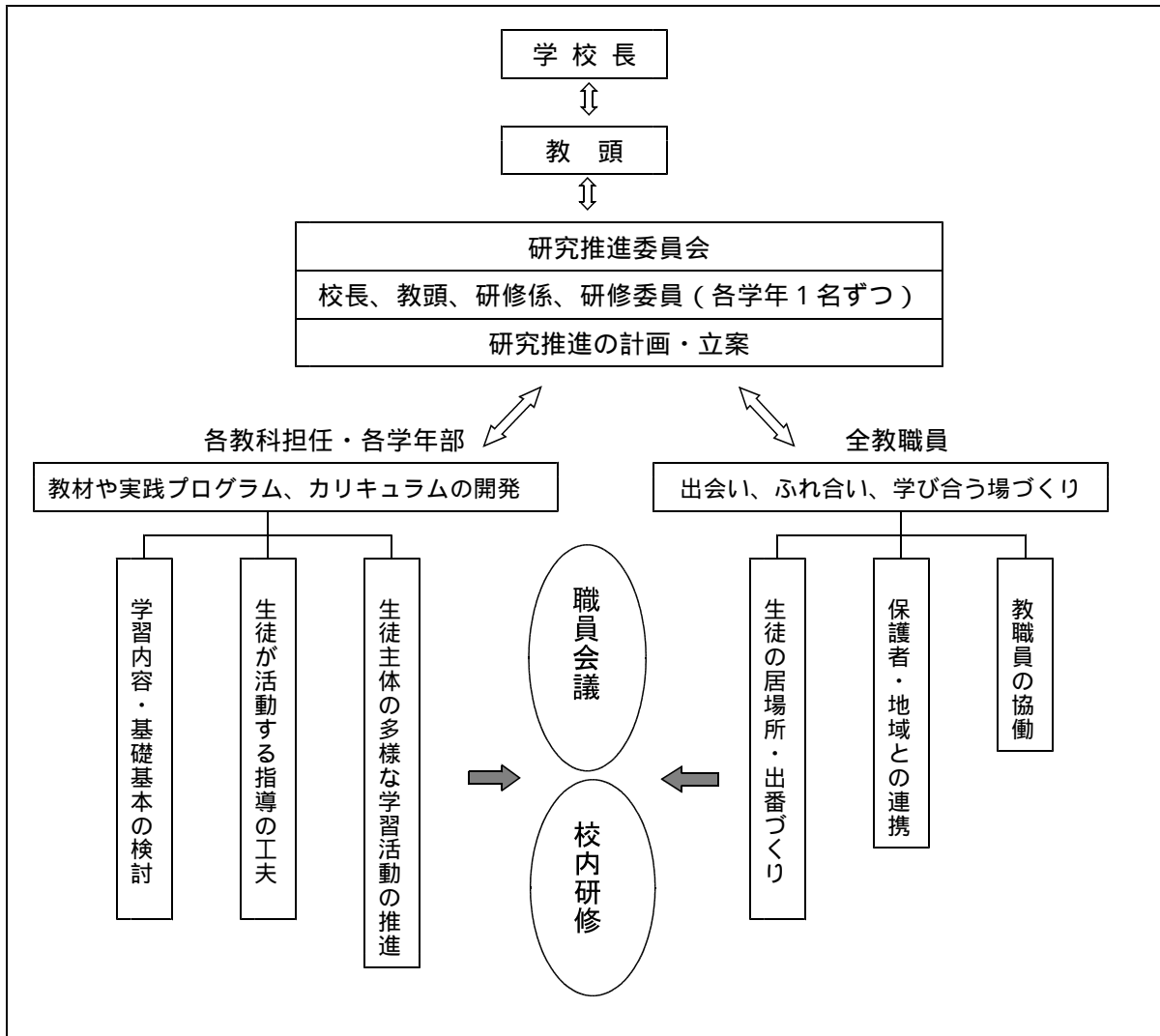
1年生の理科では学習習慣の確立していない生徒に対し、基礎・基本を明確にしながら「学ぼうとする力」を引き出し、「学ぶ力」「学んだ力」を形成・定着させていく授業づくり、学習シートの開発を進める。また、それらを英語科をはじめ他教科にも広げ研究実践していく。

- 1) 基礎・基本について協議
- 2) 中学校教育における「基礎」「基本」の明確化
- 3) 基礎・基本の定着のための授業づくり、教材の開発
 - ・ワークシート(学習内容の理解に必要な知識・技能の定着を図る)
 - ・マスターシート(知識・技能の関連づけにより基本の定着を図る)

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」の響き合いによる「学び」のさらなる創造 ・仲間と学び合い、高め合う授業づくり <p>研究の見通し</p> <p>「確かな学力」の「3つの力」の響き合いは、それぞれの力の機能的な関わりによってプラスの方向性を持ち「確かな学力」がより高まっていくであろう。</p> <p>また、コツコツと、集団の熱気の中で、教師も寄り添って学び合い、ときには助け合うことにより、仲間と学び合い、育ち合い、自信や意欲、自己学習力が育ち個性も伸ばすであろう。</p> <p>(テーマの変更については、昨年度、英語・技術・選択理科で行われていた「響き合い」をより多くの教科で実践するため)</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>基礎、基本の定着を図るための「学びなおし」を位置づけた授業計画、日課、時間割の工夫</p> <p>『学力』を定着・向上させていくための仲間との「学び合い」を研究</p> <p>基礎的な学力、発展的な学力の形成のために「学びなおし」の場での教材と指導方法を開発、研究</p> <p>研究対象の拡大し、各教科、領域での実践交流を深めながら、研究対象学年を全学年に拡大。また教科(英語、理科、数学、社会、国語)や領域での基礎・基本の定着の研究も推進</p> <p>教研式全国標準学力検査、教研式標準学力検査(CRT・NRT)の2種類の検査を全学年、全生徒に実施し、分析をすすめる</p> <p>小規模校の特質を生かして、個々の学力実態をできるだけ詳細に調査し、基礎・基本の定着を図りながら、個々に応じた指導とその成果や課題の明確化</p> <p>については昨年度の課題をもとに設定。は総合的な学習の時間 Human Time 「性と生」 Human Time 「食と健康」なども含めた全職員に研究を広げるために設定。は今年度当初に実施し、その分析を行うため。は研究内容と関わって、よりきめ細かな指導が必要と判断したため。</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己学習力のさらなる向上 <p>研究の見通し</p> <p>「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」が響き合い、それが原動力となって「学び」を創造し、持続的に取り組む中で「確かな学力」の形成・定着・向上がより促進されるであろう。</p> <p>また「確かな学力」習得過程での「学びなおし」や「自己評価」により学力の定着が促進され、一人ひとりに自信や意欲が生まれ、自己学習力がさらに向上するであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>「学びなおし」「自己評価」による自己学習力のさらなる向上</p> <p>「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」の響き合いによる「学び」を通して身につけた「確かな学力」を「学びなおし」や「自己評価」といったフィードバックによって定着させ、さらには自己学習力を向上させていく研究を推進する。</p> <p>「確かな学力」の形成・定着・向上のためのた学力向上プログラムの開発の研究を推進</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「確かな学力」を構成する3つの力について、論議を深め、その方向がより明らかにすることができた。

全職員、全教科で「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んだ力」について仮説を立て、「学び」の「響き合い」に取り組むことができ、「各教科」「選択教科」「総合的な学習の時間」「道徳」など、それぞれの時間の場で、教科間の「響き合い」が行われ、学力の定着に成果が見られた。また、ワークシート、マスターシートの開発、研究も多くの教科へ広げ、取り組むことができると同時に、各教科の「つきたい力」「具体的な評価法・場面」等の評価規準を設定し、指導と評価の一体化をめざすことができた。

「自己評価」を指導に生かす取り組みが行われ、確かな学力の向上につながった。

さまざまな場面で評価を中心に、「書く力」や「自己を振り返る」「他者を見つめる」力が向上し、学力の形成に一定の成果が見られた。

研式全国標準学力検査、教研式標準学力検査（CRT・NRT）の2種類の検査を全学年、全生徒に実施し、分析結果をもとに、今後の指導に生かしていく上で一定の成果が見られた。

2、3年生は標準、または標準を上回っているが、1年生は、標準を下回っている教科が

多かった。国語では、1年生で書く能力が3段階評定でCの段階が過半数を超えていたため、あらゆる教科の基礎基本の一つである書く能力定着のため、ワークシート、マスターシートの改善を図り、その取り組みを進めるとともに、体験活動等の後で、感想等を書かせるなど、自分の思いを多く書かせる取り組みを行った。その結果、徐々にではあるが、以前と比べると、書く能力は高まってきたように思われる。

仲間と学び合い、高め合う授業づくりでは、一定の成果が見られた。

英語、音楽の授業では相互評価を取り入れ、お互いの良さを認め合うことができ、仲間と学び合う中で、お互い高まっていくことができた。また、体験活動の感想等を書かせる中で、お互いの良さを認め合う体制ができ、その中で自尊感情を育むことができ、学ぼうとする力の育成に側面から援助することができた。

県外の中学校と実践交流ができた。

静岡県佐久間町立佐久間中学校・静岡県磐田郡佐久間町立浦川中学校・鳥取県日野中学校・静岡県井川中学校研修主任と以下の点について実践交流を行った。

- ・「確かな学力」の定着に向けて、教材・形態・指導法などの工夫について
- ・「確かな学力」の定着向上に向けてのカリキュラムの工夫やプロセスについて

2. 今後の課題

保護者や全生徒を対象に「学力」に対する意識調査を定期的に行い、課題を整理しながら研究を推進していく

小規模校のため、各教科の指導内容を深め検討することが難しく、その方法を模索中
基礎・基本の内容とその定着についての小学校との連携の強化

研究推進のための教職員の加配

総合的な学習の時間をどう利用していくかが大事になってくる部分もあり、選択教科・総合的な学習の時間等の教育課程（実践内容も含めて）を、今後、検討していく必要がある。
個に応じた指導体制のあり方、指導内容の研究を進めていく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

評価規準表にもとづいた評価問題を作成し、単元テストとして実施。

観点別評価のデータを集積、分析して、個々の指導にあたる。

自己評価を実施。

小論文、作文、面接の実施。

全学年学期末テストの実施（学期1回、年3回実施）

3年生実力テストの実施（年3回実施）

全学年で学力テスト（CRT）の実施（1学期（実施済み）、3学期の2回実施）

